

檀原市立図書館だより

平成21年10月1日発行
第17号

檀の樹

特集:

市長にきく

秋の催し

目次:

- 特集 1
2、3
- 特集 2
4、5
- 図書館員の本棚
6
- 文部科学大臣表彰
7



市長にきく



森下 豊(もりした ゆたか)

昭和33年4月生まれ。大淀町出身。兵庫医科大学卒。平成4年、森下内科医院開業。奈良県議会議員(3期)を経て平成19年11月12日、檀原市長に就任。

檀原市では、平成19年度に「檀原市子ども読書活動推進計画」を策定しました。また、平成20年4月には「檀原市子ども読書活動推進会議」を設置して、関係者間の連携を図りながら取組を進めています。

読書の秋を迎え、本市においても様々な催しや取組が予定されています。子どもたちの読書活動への展望等も含め、お話をうかがいました。

(図書館 以下 図) 読書生活について教えてください。

(市長) どちらかというと体育会系で、テニス、スキー、ウォーキングなど屋外に出て体を動かすことの方が好きかもしれません。市長に就任してからは、読書のための時間を確保するのも難しくなりました。

医師として、また議会人として過ごした時間が長かったので、どうしても専門書や公務に役立つもの、政治・行政に関する読書になってしまいます。ただ、歴史関係の本はよく手にします。最近読んだものの中では「逆説の日本史」なんか、興味深かったですね。私どもが育ったこの地域(檀原市周辺)の歴史に関すること、藤原京ですとか、飛鳥の周辺についての本ですとか、なるべく手にとるように努めています。

(図) お好きな著者、思春期や青春時代の思い出の一冊、医師を志望される動機となった本などがありましたら。

(市長) 医師になった動機は？ とよくたずねられます。恥ずかしいのですが、実は少年時代に読んだ「ブラック・ジャック」なんですよ(笑)。素朴な正義感に溢れていた思春期に出会ったヒーローへの憧れが、動機にあったと思います。マンガとはいえ、この作品にはけっこう専門的なことが描かれている。作者の手塚治虫先生も、医学を学ばれた後に創作活動に入られましたから、作品の細部のつくりや描写、あるいは人間存在や社会の把握がリアリティーに溢れています。現在の職業人としての眼から見ても、十分に専門的です。

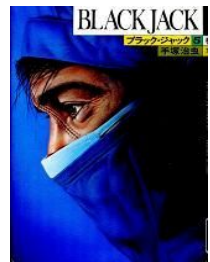
(図) 医療を、高等技術としてのみ捉えるのではなく、今日の民生や福祉といった分野を先取りするような視点、あるいは伝統規範や倫理の視点とも重ねようとした緒方洪庵のような人物もいます。

(市長) 医療に限ったことではないのですが、人間性や社会性への理解や視点が必要であるのは、言うまでもありません。そういった意味で、もうひとり印象深い著者を挙げるとすれば、河合隼雄さんですね。河合先生の著作は医師になってから本格的に読みはじめました。

(図) 文化庁長官に就任されてからも、フルートを演奏されたり、発掘現場に足を運ばれるなど活躍されました。



「逆説の日本史」
井沢 元彦 著
小学館文庫



「ブラック・ジャック 5」
手塚 治虫 著
秋田書店



「河合隼雄著作集
ユング心理学入門1」
岩波書店



「国家の品格」
藤原 正彦 著
新潮新書

(市長) 河合先生は、ユング派の心理学を学ばれた心理療法士でもあられるわけですが、臨床での貴重な経験を通じて培われた人間性への理解に、奥行きを深さを感じさせられます。先生は、本当に人間がお好きでいらっしゃるのでしょうか。「臨床心理」というと、人間を(対象物)として捉えるような冷たさをイメージされがちですが、先生は人柄に人間味が溢れていて、そういう温かいところに共感が持てます。私の友人のドクターが、河合先生の弟子だという縁もあって、生前お会いしたこともあるのですよ。その友人は、先生のご専門の「箱庭療法」も取り入れてがんばっているのですが、河合先生の著作を読むことで、私も考えさせられたり、ヒントや示唆を得たりすることが多いのです。

(図) 医療も行政も、「ひと」と接することが大きな要素を占める実務ですね。市長に就任されてから読まれた本の中で、特に印象に残る一冊をご紹介します。

(市長) 「国家の品格」という本があります。多くの読者があの一冊を手にしたのも、日本人の奥底に流れているものへの共感があったからではないでしょうか。私も何度も読み返しましたが、政治家として、行政マンとしての立場から読んで、とても興味深いと思いました。

日本人として、日本の良いものを大事にしてゆきたいと思うのです。学術や芸術もそうですが、その中には、言葉も入ってくると思います。千数百年にもわたって、何世代にもわたって精選され、洗練されてきた言葉を丁寧に仕舞ってあるのが本ではないでしょうか。良書を読むことの意義も、そのあたりにありそうな気がします。私どもの郷土は「万葉集のふるさと」でもあります。

(図) 子どもたちの読書について、当市でも様々な取組が始められています。

(市長) 「読書に取り組む」と大上段に構えるばかりではなく、自分の好きなこと、興味のあることから入っていったら良いのではないのでしょうか。手前味噌かもしれませんが、私にとっての「ブラック・ジャック」のように、場合によっては劇画や紙芝居でも構わないのではと思います。まだ十分に読解力が育っていない小さなお子さんが、絵本に手を伸ばして、おとなが読んでくれる音色に耳をかたむけたり、美しい絵を眺めるだけでもよい……。

大切なのは、導入としてのきっかけだと思うのです。そういった意味で、ボランティアの方々にも協力いただきながら行っているブックスタートは、取組として本当に素晴らしいと思います。学校での学習、地域での「おはなし」や「文庫」などの取組、家庭での過ごし方なども重要になるでしょう。

(図) 現在は10歳の小学生も、10年後には有権者となり納税者となります。

(市長) 試験で点数を取るための暗記物としての歴史ではなく、育ちや学びの中で皮膚感覚のように醸成される「歴史を感じ取る視点」のようなものを、私どもの市域からは発信できるのではないのでしょうか。かつての宮城跡や歴史上の重要な出来事の故地が、そのまま私たちの現実の生活の場と繋がっているのですから。子どもたちにも、市民として、ふるさとを盛り立てていっていただければと願っています。将来この地域から離れることがあっても、懐かしさを持ち続けてもらいたいと願っています。

(図) 本日は、ありがとうございました。(8月25日)

秋の催し

読書の季節が到来しました。文庫連絡会、おはなしの会、その他の関係者とも協力しながら、読書関連の催しをおこないます。（10月27日～11月9日は、秋の「読書週間」です）

協力 檀原文庫連絡会 檀原おはなしの会

◆ 読書フェスタ&文庫まつり

「絵本の森」

赤ちゃんから大人までが楽しめる絵本をいっぱい展示します。

「文庫まつり」

檀原文庫連絡会によるパネルシアターや絵本クイズなどの催しを予定しています。

日時 11月8日(日) 午後2時～3時半
場所 かしはら万葉ホール 4F研修室2



◆ 特別貸出

10月20日(火)～11月8日(日)の期間中、図書の特別貸出を行います。

貸出冊数 図書・雑誌についてひとり10冊まで(通常は5冊)

貸出期間 2週間(通常どおり)

* 視聴覚資料については、通常どおりひとり2点まで、2週間とします。

◆ ストーリーテラー養成講座(初心者対象)

募集終了

プログラム

- 第1日目 お話って何? (絵本と絵本以前のこと)
- 第2日目 お話を選ぶ(聞いてわかるお話って?)
- 第3日目 憶えること(楽しく憶えるには?)
- 第4日目 お話の実際(さあ、やってみよう!)
- 第5日目 お話会(発表会)



講師 川原 榮子さん
(香芝お話ローソクの会)

「ストーリーテリング」とは、物語をおぼえて子どもたちに語り聞かせることです。お話は、誰にでもできることを前提に、子どもたちが大好きな手遊びや詩なども視野に入れながら、子どもたちと楽しむための講座にしたいと思っています。

◆ ストーリーテラー ステップアップ講座(中級者対象)

講師 石川 晴子 さん
(関西大学非常勤講師)

ストーリーテラー養成講座(初心者対象左記参照)の受講を終了した方のみ、ご参加いただけます。

応募は、両日とも参加可能な市内在住者に限らせていただきます。

第1日 11月11日(水)
第2日 11月18日(水)

時間は両日とも午後1時～3時30分

場所 かしはら万葉ホール
4F視聴覚室

定員 先着30人

申込 10月6日(火)から電話か直接カウンターで受付

◆ 募集「私のおすすめこの一冊」 特別展示(後期)

檀原市立図書館の所蔵図書の中から、皆さんのおススメ本をご推薦ください。図書の紹介として展示します。推薦する本のタイトルに、ひとくち書評(100字程度)を書き添えて、10月18日までに図書館のカウンターにお持ちください。(1F応募ボックスに投入。ペンネーム可 様式任意)

★メールでも応募できます。受信専用アドレスivent@ksh-lib.jp

展示期間 11月1日(日)~11月29日(日) 場所 2F 展示コーナー



※応募多数等の事情により、展示できない場合があります。また、文意を損ねない範囲で割愛や訂正をさせていただく場合があります。

応募例 (あくまでも一例です。ご自由にどうぞ)

本のタイトル 「鷺と雪」(北村薫)

ペンネーム(本名) ガレージ書庫の主

直木賞受賞作「鷺と雪」は、3部作「ベッキーさんシリーズ」の最終巻に当たります。単独でも面白いのですが、時代背景が丁寧に描かれているので、「街の灯」「玻璃の天」とシリーズ順に進むと、より素晴らしいです。



◆ 「畝傍東学童クラブ おりがみ作品展」

小学生の皆さんによる力作ぞろいです。

期間 10月1日(木)~
11月29日(日)

場所 2F 展示コーナー

展示 「季節の絵本 秋」
現在展示中です

期間 11月29日(日)まで
場所 1F 絵本コーナー

◆ 特別展示(前期) 「新書の時代」 期間 10月1日(木)~10月30日(金) 場所 2F 展示コーナー

新書本が静かなブームです。所蔵図書の中から、話題書や人気本を中心に展示します。(下記の3点はその一例)

- ① 「外務省のラスプーチン」と呼ばれた元外務事務官と、「ウルトラ・ダラー」の著者でもある元NHKワシントン支局長による国際政治論。インテリジェンス=「精査し、裏を取り、周到な分析を加えた情報」という一文は、目からウロコです。
- ② 著者は、大手広告会社のプランナーを経てキャラクター研究所所長に就任した人物です。流行の底流を支えている日本人の精神史や「キャラ」への考察は、鋭く鮮やかです。「消費」「ブログ」「ケータイ」等のキーワードから見えてくるものにも、興味は尽きません。
- ③ 「百寺巡礼」の旅を成し遂げた著名直木賞作家の作品。混迷の時代を生きる現代人への「こころ」の処方箋です。

①

手嶋 龍一
佐藤 優 著
「インテリジェンス
武器なき戦争」

幻冬舎新書



②

相原 博之 著
「キャラ化するニッポン」

講談社現代新書



③

五木 寛之 著
「人間の覚悟」

新潮新書



図書館員の本棚 (7)

「三悪人」 田牧 大和 著 講談社 刊

田牧大和(たまき さまと)

1966年、東京都生まれ。明星大学人文学部英語英文学科卒。市場調査会社に勤務の傍ら、インターネット上で時代小説を発表。
2007年「色には出でじ 風に牽牛」で第2回小説現代長編新人賞を受賞し、作家デビュー。

おしゃべりな祖母とは対照的に、祖父は無口で、近寄り難いひとでした。

それでも、昼さがりの一刻、時代劇の再放送が始まると、私は祖父と一緒にテレビの前に並びました。

「……………食うか？」——。

仏頂面で“そばぼうろ”を差し出すのが、祖父の常でした。幼ない孫娘にどう接すればよいのか……………。不器用でかわいらしいそんな戸惑いに気づいたのは、祖父が他界した後、ずいぶん経ってからのことでした。

*

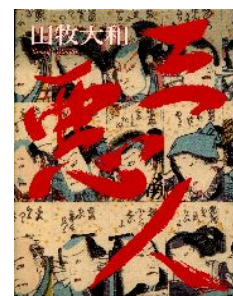
「三悪人」は、おなじみ「遠山の金さん」が活躍します。

物語の発端は、女人禁制であるはずの寺域で発見された女と修行僧の焼死体——。まだ奉行ではなく市井の遊び人でしかない金四郎、小普請組鳥居家の養嗣子になったばかりの鳥居耀蔵、寺社奉行として頭角を顕わし始めた水野忠邦……………。男三人が、互いの裏をかこうとそれぞれの思惑で動き出します。出世の足掛りに、遊女夕霧を利用しようする忠邦。退屈しのぎとウソ吹きながら、夕顔救出にやっきになる金四郎。そしてふたりの間で漁夫の利を得ようと策をめぐらす耀蔵。くるりくるりと切り替わり入れ替わる鮮やかな場面と駆け引き……………。誰が誰の手のひらの上で転がされているのか。夕顔の運命は？ 隠された切り札とは？ 騙し合いの果てに、最後に笑うのは、だれ……………？ 登場人物のひとりひとりが、作者の手を離れて生き活きと動き出します。

*

時代小説を読むと、“そばぼうろ” が食べたくなります——。

職場では、様々な本に出会います。口の中でほろほろと溶けてゆく“そばぼうろ”の素朴な味わいのように、私たちに深い滋味を与えてくれる名作、ひとが「ひと」であることの喜怒哀楽を活き活きと描き尽した優れた一冊は、この上なく素晴らしく思えます。時代劇の金さんとはひと味違った、ちょっと悪党で、でもやっぱり粋でいなせな「金さん」に魅了され、一気に読んでしまいました。(た)



「三悪人」
講談社 刊



「花合せ 濱次お役者双六」
講談社 刊



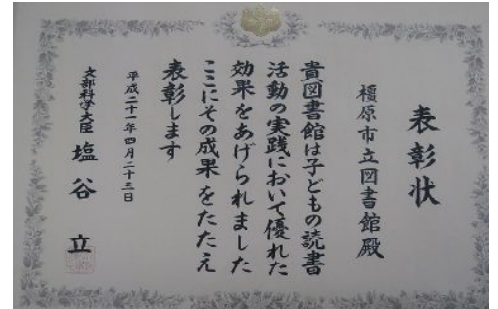
「緋色からくり」
新潮社 刊

◆ 文部科学大臣表彰

「子どもの読書活動の実践」について、表彰を受けました。

ブックスタート事業、図書館ボランティア、学校教育や地域での活動において、関係各課、「文庫」や「おはなしの会」等の会員各位の皆さん、「学童クラブ」や「地区公民館」、学校・幼稚園・保育園(所)等の先生方、その他諸団体との連携が総合的に評価されました。

関係者各位のご尽力に、心よりお礼を申し上げます。(館長)



大型絵本や紙芝居などの図書館資料を活用した学童クラブにおける読書活動。



地域の取り組み



地区公民館図書室での書架整理と書誌データの入力作業。地域の読書活動のために、様々な取組が始まられています。

榎原市に着任した教職員への図書館説明会

団体貸出や図書館見学を通じて、学校図書館や各校の学年・クラスと市立図書館が連携を深めています。



学校の取り組み

学校図書館研究会による図書館システム研修会

学校図書館の情報化を果たすため、各校の図書館にシステムの導入が図られました。同時に、蔵書の充実にも引き続き取り組んでいます。



夏休みの特別展示「ガリレオ・ガリレイと天体」(左下) と夏期催事「手づくり絵本教室」(中央)。「地球市民講座」での(図書館のしごと) (右下)



「おはなしの会」による「平和のつどい」での読みきかせ(左上)と、ストーリーテラー養成講座(右上)



※ 子どもの読書活動に関する取組状況については、本紙バックナンバー 第15号でもご案内しています。図書館ホームページ→図書館資料→「榎の樹」の順にアクセスください。同じ手順で、「榎原市子ども読書活動推進計画」もご覧になることができます。

橿原市立図書館

〒634-0075
橿原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

http:
//www.ksh-lib.jp/

編集余録

ネット予約の死角

当館でも、インターネット・携帯ネットを介した新しいサービスを始めた。貸出予約や貸出延長といった手続、または貸出や予約の状況照会が手もとの端末を操作することで可能となった。▼外出中でも、連絡をスムーズに受けることができる。図書館に電話をかけたり、来館しなくても済む場合が多くなった。深夜や休館日にもアクセスできる便利さもある。利用者には好評である。▼ただし、来館者と対面する場合は異なって、キメ細かい対応が難しいという負の側面もある。夏に直木賞を受けた北村薫の「鷺と雪」は、3部作「ベッキーさんシリーズ」の最終巻の一冊なのだが、本作品をネット予約している利用者の多くは、先行作品である「街の灯」と「琉璃の天」の存在に気付いていない。▼話題作であるから、もちろん「鷺と雪」を読むだけでも面白い。ただし有力な受賞理由のひとつである時代背景の丁寧な描写などは、シリーズ順に読み進めないと、その素晴らしさを堪能することは難しい。▼図書館が無料の貸本業と異なるのは、調査協力や読書案内といったレファレンスサービスの機能を担えるからでもある。利用者の利便だけでなく利益を図るためにも、様々な情報を発信してゆきたい。(く)

お知らせ その他

奈良あすかベンチャークラブ からのご寄贈 (5万円相当)

女性の社会活動に関する図書や、学校や文庫に対して図書館が実施している団体貸出用図書に充てられます。働く女性のための参考図書として、子どもたちの学習や楽しみのための児童図書として、役立てられます。



目録の寄贈に当館を訪れた奈良あすかベンチャークラブの代表。(7月17日)

匿名希望の方からのご寄贈

人気作家、佐伯泰英の「居眠り聲音 江戸双紙シリーズ」や「吉原裏同心シリーズ」など、時代小説作品集の最新刊・近刊文庫本219冊をご提供いただきました。



図書の寄贈について

「本を捨てるのはもったいないので……」 寄贈の問い合わせや持ち込みを多数受けます。しかし、老朽や劣化の著しいもの、所蔵図書(作品)としてすでに資料化されているもの、あるいは図書館にふさわしくないものは、寄贈をお断りするしかありません。

- 実例1 (初老男性 現物を持ち込み) 「実務や昇進試験に使用していた法律書を、記念に寄贈したい」奥付を確認すると10年前の図書。→ 図書館所蔵の実務書は、社会情勢や関係法規の変化にその都度準じる必要があるため、受け入れられない旨を説明しました。
- 実例2 (中年女性 電話問合せ) 「引っ越しをするので家にある百科事典を寄贈したい」本自体は図書館にないシリーズで比較的新しい。→ 百科事典はすでに数種類の所蔵があります。スペース等の制約もあり、類書を配架できないため、事情を説明してリサイクル活用をお願いしました。
- 実例3 (初老のご夫妻 来館) 「作家の全集が刊行されることを知った。個人的に敬愛する作家なので、購入して寄贈したい」。→ 図書館では高額のため購入を断念していたものだったため、寄贈いただきました。

表紙の写真

「ねえねえ、この本見てよ～」 「わあっ、おもしろそう。ほく、これ借りようかな……」 「あかん、見つけたんは、ほくやで」 申し訳ありません。最新刊の雑誌は、次号が入るまで貸出できません。保護者の方と、後日の来館をお願いします。(市立小学校の図書館見学で)